

昭和肥料ニュース FAX版



次に来る成分はマンガンかもしれない！？

前月のFAX通信で取り上げた「鉄」については多くの反響がありました。鉄に注目する多くの生産者様は異口同音に「3要素だけではダメだ」との意見らしくそれに対し比較的安価で使用しやすい弊社品は売りやすいとの事でした。

（苦土石灰連用の畑作生産者様へは、苦土石灰の半分程度を弊社製品へ切り替える「併用提案」で受注しているそうです。水稻へは最小限のミネラル維持のためコストも考慮し反2袋施用で地力維持するケースが多いようです）

さて今月は「鉄」と同様、ミネラル栄養素の「マンガン」についてです。

低日照時の光合成を支えるミネラル

今年の7月は全国的に低日照で各作物の生育が滞り、水稻では倒伏、野菜や果樹では登熟障害の一因になったのは記憶に新しいところです。

少ない光でも、元気を保つためには「効率の良い光合成」が欠かせず、緑の元である葉緑素の量や質の向上が収量維持には欠かせません。

一般的に葉緑素と言えば「苦土・窒素・カリ」がポイントになると言われます（実際、これらをやると葉色が濃くなります）。最近の研究から「鉄」そして「マンガン」も大切な役割があることが明らかになっています。微量元素の効いている葉は、葉色が落ちにくく長く働き、病害や環境ストレスにも強いようです。特にマンガンを使っている場合、低日照時に良いと某所のキュウリやピーマン生産者様がおっしゃっていました。

今後の肥料法の改正で堆肥使用が増加する可能性もあり、「堆肥の連用・多投でマンガンは吸われにくくなる」事から、マンガン不足が問題になるかもしれません（新しい葉の色乗りが悪い、花つきが悪い、センチュウ害が出やすいなど）。

ミネラルはバランスよく、切らさず与えることが大切です。マンガンが欲しいお客様がおられたら、弊社を思い出して下さい。

スタッフ通信

弊社スタッフの近況や
つぶやきをご紹介します♪

生産部の井口さん に聞いてみました！

前職が自衛官であることから、通称は「自衛官」、飲み会では見事な「各種・ほふく前進」を披露してくれました。

城巡りにはまっており、最近では郡上八幡、越前大野の城を巡り、来月もいろいろ計画中との事でした。



マンガン補給に
おすすめです！

鉄資材の連用時は
数年に一回のマンガ
ンを補給がお薦め！
（鉄・マンガンのバラ
ンスを取ろう！）